

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月14日

上場会社名 ナノキャリア株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4571 URL <https://www.nanocarrier.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 秋永 士朗
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 藤本 浩治 TEL (03) 3241-0553
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	142	—	△1,092	—	△1,019	—	△999	—
2022年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △1,218百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△14.26	—
2022年3月期第3四半期	—	—

(注) 当社は、2022年3月期第3四半期において、四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期第3四半期の数値、対前年同四半期増減率及び2023年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,963	4,298	72.0
2022年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,295百万円 2022年3月期 一百万円

(注) 当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期の数値の記載をしておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	184	—	△1,540	—	△1,463	—	△1,471	—	△20.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2023年3月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社PrimRNA

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	70,151,558株	2022年3月期	70,011,258株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	11,127株	2022年3月期	4,826株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	70,076,217株	2022年3月期3Q	69,941,305株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2021年4月1日付で、アクセリード株式会社と共同で株式会社PrimRNAを設立し、核酸医薬の研究開発を実施してまいりましたが、研究開発の進捗により当社の医薬品事業における同社の重要性が高まったことに伴い、第2四半期連結会計期間から四半期連結財務諸表を作成しております。これにより、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の前年同四半期比較の記載は行っておりません。

なお、当社は当第3四半期連結会計期間後の2023年1月26日開催の取締役会において、ビジネスモデルの変更を決定しております。当社はミセル化ナノ粒子技術を活用し、ナノ粒子内に低分子などの医薬品を封入した抗がん剤を中心に、革新的な医薬品の開発を進めてまいりました。しかしながら、2022年、シスプラチンミセル

(NC-6004)の第Ⅱb相臨床試験及び、Vasucular Biogenics Ltd. (NASDAQ: VBLT) から国内開発・販売権を取得した遺伝子治療等製品「VB-111」の国際共同第Ⅲ相臨床試験において、主要評価項目未達のため、相次いで開発を中止いたしました。これを受けて当社は、ビジネスモデルの見直しを行い、当社の核酸医薬開発及びDDS技術の知見を活かしつつ、アクセリード株式会社及び傘下企業との協業等を活用することで効率的に複数のmRNA医薬の創薬及び知財獲得を進め、後期臨床開発ステージに入る時点までに、製薬企業にライセンスアウトを行うことを事業の柱とすることといたしました。mRNA医薬の研究開発に6年以上取り組んできた経験と実績及びこの間に築いた豊富なネットワークを生かして、多数のパイプラインを同時並行でインキュベートしmRNA治療薬のIPを創出するIP Generator企業へと変貌してまいります。

なお、新型コロナウイルス感染症の当四半期連結累計期間における業績への影響につきましては、当社は医薬品等の研究開発段階にあるため、軽微であったと判断しております。

(mRNA医薬パイプライン)

急激に市場が開いたmRNA創薬分野ですが、感染症ワクチン以外の治療薬等の領域はこれから医薬品としての開発競争が始まります。当社は、国内企業に先駆けて、mRNA創薬ビジネスモデルのFlagshipプロジェクトとして、変形性膝関節症に対する再生医薬の開発を推進しています。今後、製薬企業や非製薬企業、アカデミア等との共同研究を推進し、新規パイプラインの拡充を推進してまいります。

RUNX1： アクセリード株式会社と共同で株式会社PrimRNAを設立し、医師主導第Ⅰ相臨床試験開始に向けた研究開発を行っております。非臨床薬効試験において良好な成績が得られましたので、非臨床安全性試験および原薬・製剤などの準備を現在進めております。

RUNX1 (mRNA) は、軟骨の増殖・分化に関わる転写因子RUNX1のmRNA医薬です。軟骨組織の修復を促進することにより、変形性膝関節症の進行を抑制するとともに疼痛の軽減も実現する革新的な疾患修飾型治療薬を目指し、局組織再生mRNA医薬として研究を推進しています。本プロジェクトは、AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業に採択されております。

(mRNA医薬以外のパイプライン)

これまで実施してまいりましたパイプラインの開発も継続して行っております。

ENT103： 国内における中耳炎を対象とした第Ⅲ相臨床試験において、主要評価項目達成し、2022年4月、セオリアファーマ株式会社（以下「セオリアファーマ」といいます。）が外耳炎及び中耳炎を対象に製造販売承認申請を行いました。

ENT103はセオリアファーマと共同開発中の耳鼻咽喉科領域におけるパイプラインです。今後、薬事承認、薬価収載というステップを経て、2023年度前半の販売開始を見込んでおります。

NC-6100： 公益財団法人がん研究会有明病院において、再発・進行HER2陰性乳がんを対象に医師主導第Ⅰ相臨床試験を実施しております。

NC-6100は、慶應義塾大学との共同開発プロジェクトによる転写因子PRDM14に対するsiRNA DDS製剤です。

TUG1： 脳腫瘍の中でも悪性度が高い膠芽腫を対象とした医師主導第Ⅰ相臨床試験開始に向け、鍵となる非臨床安全性試験を終え現在治験薬の準備などを進めております。

TUG1 ASO (ASO：アンチセンスオリゴ) は、長鎖非翻訳RNA TUG1に対するASO DDS製剤です。本プロジェクトは、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学との共同研究であり、日本医療研究開発機構 (AMED) の革新的がん医療実用化研究事業に採択されております。

<自社開発完了および開発中止のパイプライン>

NC-6300： 2021年6月にファスト・トラック指定^{*}を受け、米国における血管肉腫対象の例数追加試験において12例中5例でPR（奏功）を確認、2022年4月に全患者への投与が完了いたしました。ライセンスアウトに向けた活動を行っております。

NC-6300は、エピルビシンのミセル化ナノ粒子製剤です。

※ファスト・トラック指定

米国における画期的な新薬について優先的に審査する、優先審査制度です。完治が難しい疾患に対して高い治療効果が期待される新薬を優先的に審査して早期実用化を促すことを目的とした制度です。

NC-6004： 2022年4月、第Ⅱb相臨床試験の暫定的な解析において、主要評価項目達成の可能性が低いと推察され、本治験を継続しないことをOrient Europharma Co., Ltd. と合意し、本製品の開発中止に向けた手続きを進めております。

NC-6004は、シスプラチンのミセル化ナノ粒子製剤です。

VB-111： プラチナ製剤抵抗性再発卵巣がんを対象とした国際共同第Ⅲ相臨床試験（OVAL試験）について、2022年7月に受領したトップラインデータでは、無増悪生存期間（PFS）及び全生存期間（OS）の解析において、統計的に有意な改善が認められませんでした。

VB-111はアデノウイルスベクターによる遺伝子治療用製品です。

（販売事業の状況）

株式会社アルビオンが販売する美容液エクラフチュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキュレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。なお、同社との共同開発製品であるスカルプトータルケア製品「Depth」事業は、2022年12月末をもって全品の販売を終了しましたが、引き続きアルビオン社への化粧品原料供給等を継続してまいります。

また当社は、治療法がない領域に新たな医療を届ける一環として、株式会社エイオンインターナショナルとの契約に基づき、PRP療法を用いた不妊治療をサポートしております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、化粧品材料供給収入、開発マイルストーン収入及びPRP事業に係る売上等により142,111千円、営業損失は1,092,726千円、経常損失は1,019,717千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は999,292千円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間におきまして、以下の営業外収益及び特別利益を計上しております。

- ・ 外国為替相場の変動による為替差益56,606千円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。
- ・ 第15回新株予約権の権利行使期間満了のため、新株予約権戻入益27,493千円を特別利益に計上しております。また、当連結会計年度は連結財務諸表の作成初年度であるため、前年同期との比較分析は行っておりません。

（2）財政状態に関する説明

① 資産の部

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,839,607千円であり、主な内訳は、現金及び預金3,239,776千円、受取手形及び売掛金69,505千円、有価証券1,330,034千円であります。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は1,123,977千円であり、主な内訳は、投資有価証券888,368千円等であります。

② 負債の部

当第3四半期連結会計期間末における流動負債及び固定負債は合計で1,664,953千円であり、主な内訳は転換社債型新株予約権付社債1,150,000千円等であります。

③ 純資産の部

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,298,630千円であり、主な内訳は、資本金119,150千円、資本剰余金5,499,591千円、利益剰余金△1,059,821千円であります。

これらの結果、自己資本比率は72.0%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第27期（2023年3月期）において、主要経営指標であります売上高、営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、それぞれ184百万円、△1,540百万円、△1,463百万円、△1,471百万円を見込んでおります。なお、第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しており、2022年11月11日の「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」で公表した通期業績予想に変更はありません。また、第27期の研究開発費は、1,286百万円を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	3,239,776
受取手形及び売掛金	69,505
有価証券	1,330,034
原材料及び貯蔵品	331
その他	199,959
流動資産合計	4,839,607
固定資産	
有形固定資産	0
無形固定資産	149
投資その他の資産	
投資有価証券	888,368
その他	235,458
投資その他の資産合計	1,123,827
固定資産合計	1,123,977
資産合計	5,963,584
負債の部	
流動負債	
買掛金	985
転換社債型新株予約権付社債	1,150,000
未払法人税等	52
その他	454,892
流動負債合計	1,605,930
固定負債	
資産除去債務	25,950
その他	33,072
固定負債合計	59,023
負債合計	1,664,953
純資産の部	
株主資本	
資本金	119,150
資本剰余金	5,499,591
利益剰余金	△1,059,821
自己株式	△27
株主資本合計	4,558,893
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△263,185
その他の包括利益累計額合計	△263,185
新株予約権	2,922
純資産合計	4,298,630
負債純資産合計	5,963,584

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	142,111
売上原価	28,137
売上総利益	113,974
販売費及び一般管理費	1,206,700
営業損失(△)	△1,092,726
営業外収益	
受取利息	18,439
為替差益	56,606
雑収入	858
営業外収益合計	75,904
営業外費用	
株式交付費	469
雑損失	2,425
営業外費用合計	2,895
経常損失(△)	△1,019,717
特別利益	
固定資産売却益	4,531
新株予約権戻入益	27,493
特別利益合計	32,025
特別損失	
固定資産除売却損	50
減損損失	6,912
特別損失合計	6,962
税金等調整前四半期純損失(△)	△994,654
法人税、住民税及び事業税	4,638
法人税等合計	4,638
四半期純損失(△)	△999,292
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△999,292

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△999,292
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△219,229
その他の包括利益合計	△219,229
四半期包括利益	△1,218,522
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,218,522
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第2四半期連結会計期間より、重要性が増したため株式会社PrimRNAを連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。

（重要な後発事象）

1. 第三者割当による第6回無担保転換社債型新株予約権付社債（リファイナンス）並びに第20回新株予約権の発行
 当社は、2023年1月26日開催の取締役会において、第三者割当による第6回無担保転換社債型新株予約権付社債（以下「本新株予約権付社債」といい、その社債部分を「本社債」といいます。）及び第20回新株予約権（以下、「本新株予約権」といいます。）の募集を行うことを決議し、2023年2月13日付で割当を実施いたしました。
 なお、本新株予約権付社債及び本新株予約権の発行に係る払込みについては、金銭による払込みに代えて、当社が2021年5月10日に発行した第5回無担保転換社債型新株予約権付社債（以下「本既存社債」といいます。）の2023年1月26日時点で残存する全部が出資されたため、本新株予約権付社債の募集に関しては、実質的には本既存社債の条件変更（リファイナンス）としての効果を有しております。

①本新株予約権付社債

(1) 払込期日	2023年2月13日
(2) 新株予約権の総数	39個
(3) 社債及び新株予約権の発行価額	本社債の発行価額の総額は1,108,916,250円（各本社債の発行価額は28,433,750円）（額面100円につき金100円） 本転換社債型新株予約権の発行価額は無償
(4) 当該発行による潜在株式数	7,200,754株
(5) 資金調達の種類	下記（8）に記載のとおり、本新株予約権付社債の発行に際しては本既存社債が出資されるため、新たに調達される資金はありません。
(6) 転換価額	154円
(7) 募集又は割当方法（割当先）	第三者割当の方法により、全額をTHEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合（以下「TKFファンド」または「割当先」といいます。）に割り当てる。
(8) 出資の目的とする財産の内容及び価額	出資の目的とする財産は以下のとおり TKFファンドが保有する本既存社債39個（額面金額1,121,250千円）
(9) 利率及び償還期限	本新株予約権付社債には利息を付しません。 償還期限：2025年12月26日
(10) 資金の使途	—

②本新株予約権

(1) 割当日	2023年2月13日
(2) 新株予約権の総数	102,642個
(3) 発行価額	総額2,052,840円（本新株予約権1個につき20円）
(4) 当該発行による潜在株式数	10,264,200株（本新株予約権1個につき100株）
(5) 資金調達の種類	1,580,686,800円 （内訳）本新株予約権発行による調達額：— 本新株予約権行使による調達額：1,580,686,800円 下記（8）に記載のとおり、本新株予約権の発行に際しては本既存社債が出資されるため、上記金額には本新株予約権に係る発行価額は含まれておりません。
(6) 行使価額	154円
(7) 募集又は割当方法（割当予定先）	第三者割当の方法により、全てをTKFファンドに割り当てる。
(8) 出資の目的とする財産の内容及び価額	出資の目的とする財産は以下のとおり TKFファンドが保有する本既存社債1個（額面金額28,750千円）
(9) 行使期間	2023年2月13日から2025年12月26日まで
(10) 資金の使途	①mRNA医薬品開発の推進 ②核酸医薬開発品（TUG1）の治験費用・導出活動費用 ③革新的なmRNA製造・医薬品開発技術の獲得及びM&A

2. 第5回無担保転換社債型新株予約権の発行による調達資金の使途変更

当社が2021年5月10日に発行した第5回無担保転換社債型新株予約権の発行による調達資金1,150百万円については、当初の資金使途に従い、1) 核酸医薬等事業拡大の上での有力企業、2) 医薬品事業の経営基盤強化の上での有力企業とのM&Aや業務提携等を予定しておりましたが、現時点までにかかるM&A等は実現しておりません。当社は、2023年1月26日開催の取締役会におけるビジネスモデル転換の決定に伴い、mRNA医薬品研究開発に注力するため、資金使途及び支出予定時期を下記のとおり変更し、1. 第三者割当による第6回無担保転換社債型新株予約権付社債（リファイナンス）並びに第20回新株予約権の発行②本新株予約権(10)資金の使途に記載の資金使途①及び②に充当することといたしました。

第5回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行による調達資金の使途変更

払込期日	2021年5月10日
調達資金の額	1,150,000,000円
転換価額	308円
募集時における発行済株式数	69,882,158株
割当先	THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合
当該募集による潜在株式数	3,733,766株
現時点における転換状況	—（転換済の新株予約権個数：0個）
発行時における当初の資金使途及び支出予定時期	M&Aや提携の推進：1,150百万円 （次世代モダリティ技術を獲得、収益化の促進） 2021年5月～2023年12月
変更後の資金使途及び支出予定時期	①mRNA医薬品開発の推進：950百万円 <内訳> 1. 革新的なmRNA製造技術評価（アカデミア、バイオテック企業保有技術）：100百万円 2. 新規mRNA創薬のための共同研究開発費：750百万円 3. 特許関連費用（出願、FTO）：100百万円 2023年2月～2025年12月 ②核酸医薬開発品（TUG1）の治験費用・導出活動費用：200百万円 2023年2月～2025年12月
現時点における充当状況	調達資金1,150百万円は、全額を銀行預金等の安全な運用方法で管理しております。 上記変更後の資金使途に従い充当する予定です。